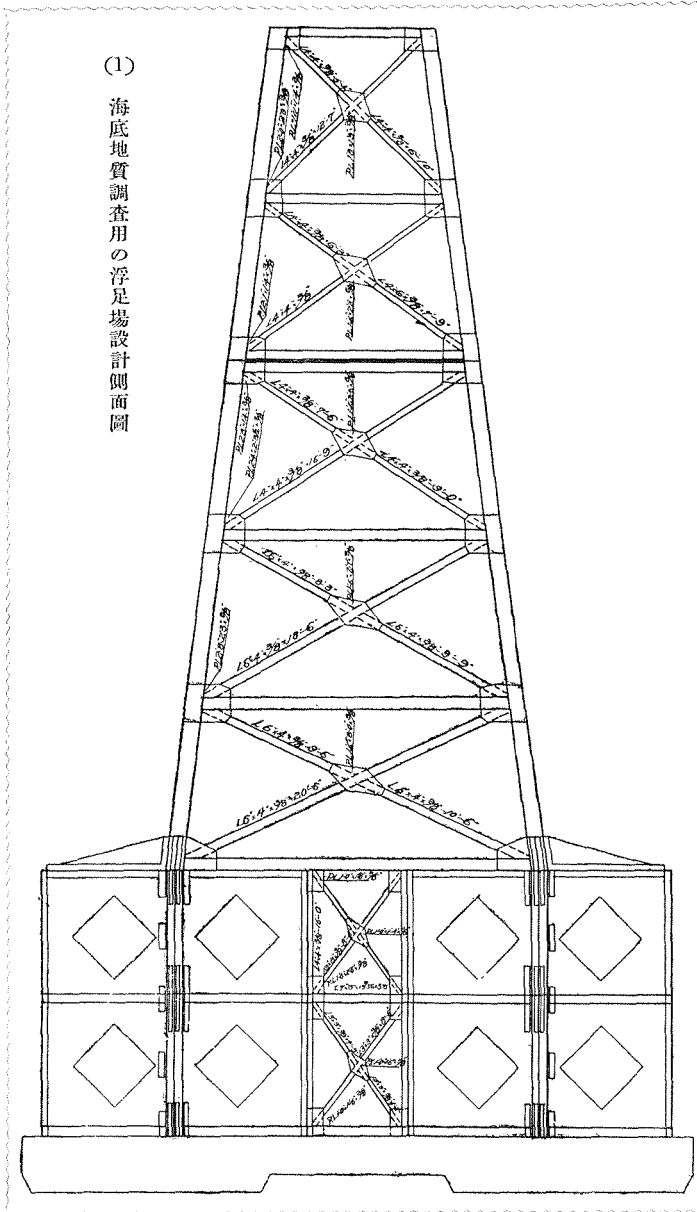


## 關門間大瀬戸地質調査用浮足場

(1) Elevation of Steel Tower Staging on Reinforced Concrete Floating Caisson.



大瀬戸は最大水深約 50 呎あり、地質調査施行の爲水深大なる場所には試錐機架臺用として浮足場を使用す、試錐の方法は先づ浮足場上に試錐機を載せ、回轉式ダイヤモンド機により海底中所需深度迄の地質を調査し、一箇所を終了せば、試錐機を取外したる上該足場を浮揚せしめ更に新位置に曳航沈置するものこす。

### 浮足場の構造

浮足場は其の基礎部を鐵筋混凝土にて作り、其の上にて四箇の圓筒狀鋼製氣槽を取付け其の上方に鐵製槽を設くるものにして造船所に於いて此れを製作し、完成後進水の上、圓筒氣槽の浮力により之を水面に浮揚せしめ、曳船を以て試錐箇所に曳航し、所定位置に沈定す。

浮足場の沈下は圓筒狀空氣槽上部に附屬する空氣管より空氣を抜くときは、同槽の下部の孔より自然送水せられ、其の浮力を失ふを以て漸次沈下す。基礎混凝土は海底の地盤上に足場の定置を安全ならしむる爲め

### 關門海底トンネル

1

本州と九州とを連絡する

關門鐵道工事は明治四十四年以來調査研究されて、一時中止になつてゐたが、鐵道當局では昨年九月四

日も重要會議を開いて愈々隧道により關門鐵道を連絡する事に決定した。

關門隧道案は幡生から小門海峽を渡り彦島を過り海底隧道により大瀬戸海峽を横斷し九州線に接続す